

人工透析室

1. スタッフ構成(2025 年 3 月時点)

- 岡本 賢二郎(腎糖尿病センター長、臨床工学部長)
- 二宮 郁(泌尿器科主任部長、腎糖尿病センター副センター長、人工透析室長、ネットワーク運用管理室長)
- 村上 太一(腎臓内科主任部長、腎糖尿病センター副センター長)
- 松村 正文(泌尿器科部長)
- 柳原 豊(泌尿器科部長)
- 小山 花南江(泌尿器科部長)
- 市原 興基(泌尿器科医長)
- 角陸 文哉(泌尿器科副医長)
- 船木 慶佑(泌尿器科医師)
- 橋本 啓佑(泌尿器科医師)
- 信森 祥太(泌尿器科専攻医)
- 鈴木 紗代(腎臓内科部長)
- 谷村 智史(腎臓内科医長)
- 高橋 謙作(腎臓内科医長)
- 平田 隆(内科専門研修プログラム専攻医)
- 菱田 祐輔(内科専門研修プログラム専攻医)
- 石川 由加里(看護長)
- 看護師:15 名
- 看護補助者:1 名
- 臨床工学技士:14 名

2. 認定資格取得(2025 年 3 月時点)

資格名	資格取得者
日本透析医学会透析専門医	岡本賢二郎、二宮郁、村上太一、柳原豊、鈴木紗代、市原興基

3. 運営方針

- (1) 腎不全医療における SDM を推進することで患者中心の医療を目指します。
- (2) 安全な腎不全治療を提供できる医療体制の確立を目指します。
- (3) 健全な経営への取り組みを行います。
- (4) 震災等の災害時に対する緊急時の体制整備を進めます。

4. 実績

人工透析室は透析ベッド 45 台を有し、医師・看護師・臨床工学技士が協働し、運営しています。

中予地区の基幹病院であるため、新規導入患者数が多いことに加え、近隣の病院で合併症余病を併発した患者さんやシャントトラブルの紹介も多く、他院に比して重篤な患者さんを抱える病院となっています。血液浄化法は血液透析のみでなく、血液濾過、血漿交換、免疫吸着等、各種血液浄化法に対応しています。2013 年 11 月からは on-line HDF を導入し、安定した維持透析を行って

ます。2024 年には透析機器の一斉更新も施行されました。腹膜透析外来も担当しています。

慢性腎不全(CKD)患者の保存期管理においては、腎臓病教室の企画やパンフレット指導に力を入れ、腎代替療法のオプション提示や自己管理の強化につなげています。また看護師・医師が協同し、SDM の考えに基づき、腎代替療法選択における意思決定支援を行っています。さらに、総合的な腎不全医療の一環として、泌尿器科スタッフを中心に腎移植の推進、術後管理を協力し行っています。臨床工学技士は、透析室以外(ICU、HCU 等)でも多臓器不全症例における急性血液浄化法(持続血液濾過:CHDF 等)管理を中心的に担っています。

今後は、震災等の災害時緊急体制を確立し、県内のみならず近隣県との医療連携も整備する必要があると考えています。

■ 透析室患者数

	2020	2021	2022	2023	2024
年間透析回数	14,338	13,318	13,861	12,566	11,479
HD 新規導入	89	88	97	97	73
CAPD 新規導入	9	5	2	8	6
血漿交換:PE、DFPP	79	99	84	48	87
血漿/免疫吸着	3	0	12	0	0
白血球/顆粒球吸着	9	18	15	19	16
腹水濃縮	5	1	2	4	0
末梢血幹細胞採取	20	15	16	22	8
吸着式潰瘍治療	—	—	—	44	30

5. 2025 年度目標

腎代替療法の選択において適切なオプション提示ができ、導入期、維持期透析いずれにおいても、良質な腎不全医療を提供します。そのためにチーム医療を推進し、腎代替療法専門指導士など人材育成を進めていきます。

2024 年 4 月からは夜間透析が廃止されたため、午前、午後にさらに医療資源を集中し、治療にあたります。

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 山師定、CKD-MBD 最近の話題。第 2 回愛媛腎代替療法 WEB セミナー、松山 (2024.1.23)
2. 村上太一。腹膜透析の魅力。第 2 回愛媛腎代替療法 WEB セミナー、松山 (2024.1.23)
3. 松村正文。腎移植の魅力。第 2 回愛媛腎代替療法 WEB セミナー、松山 (2024.1.23)
4. 和泉美智子。血液透析導入後に腎移植を検討したきっかけについて。第 2 回愛媛腎代替療法 WEB セミナー、松山 (2024.1.23)